

イベント報告



11月のチャペルコンサート 13名参加

11月17日(水)「朗読をアイリッシュハーブの調べとともに一手ぶくろを買いに」というテーマで aria (アリア) のみなさんをお迎えました。おはなしの情景が目に浮かぶような朗読と演奏でした。



クリスマスコンサート 85名参加



12月25日(土)60名の京都シティーフィル合唱団のみなさんの歌声がホールいっぱいに広がりました。

エレクトリカルクリスマスショー 54名参加

12月9日(木)鈴鹿隆之先生(元当院医師・鈴鹿内科医院長)とすずりんくらぶ(スタッフ有志)によるハンドベルの演奏他。工夫が凝らされた演出で参加された方々も出演者も楽しいひとときを過ごしました。



クリスマスページェント 69名参加

12月3日(金)今年も同志社幼稚園の園児30名と先生方をお迎えました。キリストの降誕劇と歌に多くの参加者が感動しました。

イベント予告

4月にはイースターの催しを予定しています。

献金・献品感謝ご報告

(10.11.1 ~ 10.12.31) 敬称略

田中 愛子	田中 洋子	野口 真喜	下村 りつこ
清水 祐信	高木 芳雄	隈本 勝昭	矢ノ上 清子
前田 佳子	川畑 泰	川畑 淑子	立入 哲
松田 明子	荒木 紫乃	今村 繁雄	内堀 賤子
村上 英夫	恒藤 節子	仁木 房子	鬼石 ヒサ子
岩西 敬一	高田 幸彦	山本 温子	竹村 紀彦
西山 洋子	保福 悦子		

同志社女子中学校・高等学校 西南幼稚園
 ボブ・グラステッド Audrey V.Fontnote,M.D.
 佐守 恵美子 リンデンベルズの皆様



バプテストで働きませんか

京都の北東、北白川の地に静かにたたずむ緑多い環境の中で、全人医療の技に励む私たちとともに働きませんか

採用情報 <http://www.jbh.or.jp/saiyou1.html>

編集後記

陽春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。新しい病棟にも慣れ、日々新たな問題に取り組み奮闘しております。新しい環境で基盤を構築し、次なる第一歩となります様に、活発に行動していきたいと思えます。また、更衣室・休憩室も新しくなりました。喜びと共に、感謝の気持ちを胸に大切に使用していきたいと思えます。(M.H)

日本バプテスト病院の基本理念は全人医療です。

人間は「からだ、こころ、たましい」からなる全人格的な存在です。

当病院は、イエス・キリストの隣人愛に基づき、全職員がよいチームワークを保ち、専門的知識と技術を活かして、全人医療の業に専念します。



病院新病棟完成と2011年に向けて

きた けんきち

日本バプテスト病院 病院長 北 堅吉



日本バプテスト病院は、開設以来半世紀の歴史を刻んできましたが、昨年11月の病院新病棟完成に伴い、新しい時代に向けての第一歩を踏み出しました。着任以来左京区を中心とした地域医療の発展に資するため、病院機能の急性期化を進めてきました。しかし、旧病棟の老朽化などからなかなか十分な機能を発揮することが難しく、地域の方々や地域医療を担っておられる診療所の先生方にいろいろご不便をおかけしたと存じます。

新病棟完成に伴い、旧新館病棟との設備面での一体化がなされ、また常勤医師も35名を超え、構成年齢も大幅に若返りました。このように、より適切な急性期疾病への対応や患者の皆様の快適な療養環境の提供などがハード・ソフトの両面から整備が可能となり、地域の医療諸事情に何とかお答えできる病院へと踏み出せると

えています。今後も本院の医療機能の着実な整備を進めるとともに私どもの位置する左京区を中心とした地域での中核を担える急性期病院としての役割を果たしていきたいと考えています。

一方で、京都市北部の急性期医療体制の劣化は著しく、待ったなしの状況にあります。167床の本病院のみではこの状況に対応できないことは明らかです。本地域の医療・介護機関、特に診療所の先生方との密接な連携体制の構築なくしては考えられません。

なおいろいろご不便をおかけすることもあるかと存じますが、より良い病院へと職員一同全力を尽くす所存ですので、一層のご助言、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

Relay Column

バプテスト リレーコラム vol.1

5階西病棟

看護師
しきまゆみ
志岐真由美
(卒後11年目)



5階西病棟は現在22人のスタッフが患者様のケアに当たっています。2010年11月7日、本館2階から、新々館の5階に引っ越しました。平井師長をはじめ、樋口隊長、鷲巣隊長が細かく作戦をたててくださったおかげで、スムーズに引越しを終えることができました。

新しい部屋に入った患者さんが「高級ホテルに来たみたいやな！」と満面の笑顔でおしゃっていたのを覚えています。患者さん皆、笑顔でした。もちろん私も。

本館では、ナースステーションは狭く、ナースコールや電話をとるのにも一苦労でした。薄暗く、天井は配管がむきだし、冬は隙間風がふき、凍えながらラウンドしていた廊下、窓がなく、食事介助に入ると、身動きすらままならないほどの狭く暗いデイルームなど、今は懐かしくさえ思えます。



今や、走り回れるほど広々としたナースステーション、冬でも快適な廊下、心なしか気持ちにも余裕が出てきたように感じます。大きな窓から太陽の光が燦々と降り注ぐ、開放的なデイルーム。窓から見える木々から季節が感じられます。さらに大文字山までみえるなんて！

ほとんどの患者さんが食事時にデイルームに集まり、部屋の違う患者さん同士が「おはよう」「おやすみ」と挨拶をしている光景を見ると、なんだか嬉しくなってしまう。ここ5西は「対人間」の看護だ、というのが私の印象であり自慢です。



ある時、Dr. からうれしい言葉がありました。「不穩が強い患者も、5西に来ればなぜか落ち着く」「食事が入らない患者も、5西に来ればなぜか食べられるようになる」それは5西の専門性が最大限発揮できている成果であり、5西の特徴なのです。生き生きと働くスタッフ、生き生きと働けるこの病棟が、私は大好きです。



ステンドグラス グラスのかけら

Stained Glass

聖書のことば～語りかけられた魂のことば 第1回



主の言葉は、
わたしの心の中、
骨の中に閉じ込められて
火のように燃え上がります。
押さえつけておこうとして
わたしは疲れ果てました。
私の負けです。

エレミヤ書 20章9節



感情ではない何かがこの言葉にはある。紀元前7世紀末から6世紀はじめを生きた預言者エレミヤの言葉。張り裂けそうな思いでもない、押しつぶされそうな思いでもない。骨の髄にまで語りかけられたことば。刻み付けられた記憶のようなもの。神がエレミヤに語りかける働きかけそのものといってもよいだろうか。それはエレミヤの中で、伝えなければならない衝動となって、骨の中で燃え上がっている。まるで暖炉の薪が突然火の中で音をたててはじけるように。怒りか、悲しみか、叫びか、義への渴望か、意志か。エレミヤに語りかけた神の思いは言葉となって、エレミヤに預けられる。エレミヤはもはや自分の中にとどめておくことができない。人が「もう私の負けです」と自分の敗北を宣言するような事態。それは神から託された使命か、愛くらいしか、ここまで突き動かすものはないだろう。どちらも神からでているものである。愛する都エルサレムの陥落を前に、託された神の思いをエレミヤはただひたすら語り続けた。都の陥落後、人々ともにエジプトへ。その最期は不明である。

はまもと きょうこ
牧師・チャプレン 浜本 京子



福祉用具と共に

私がこの病院のボランティアとして福祉用具のお世話をさせて頂くようになってから早くも足掛け八ヶ月になります。福祉用具とひとくちに言いますが、電動ベッドのような大きな物からステッキのような小物まで様々のものがあります。ベッドは病院の施設には不可欠の物ですが、それに次いで活躍しているのが車いすです。車いすにもティルトやリクライニング機能の付いた高級な物から普及型の自走タイプや介助タイプの一般的な物までいろいろな種類の物があります。

現在、病院と老人保健施設を合わせて約百七十台の車いすが稼動しています。その中で一番多いのが自走タイプの車いすですが、ほとんどは介護の方が押しておられるようです。車椅子の基本機能は「移乗、移動、座位」と言われています。この中で「移乗」がベッドやトイレなどへと、一番多く繰り返されて危険が伴う大切な場面だと思えます。

私がお世話をさせて頂くようになり、車いすについては独自に台帳を作って保守管理の記録を取っています。頻繁に起こるのはブレーキの不具合とタイヤの空気不足です。

ブレーキの効きと空気不足は連動しますので特に注意が必要です。これからも、しっかりと見守っていきたくと思っています。

最近では病棟や施設のロビーで入所者の方と会話する機会ももてるようになりました。その会話の中から、これからの福祉用具の改良や改善に役立つものが得られることを期待して、一週間に一度の活動に前日から胸を躍らせているこの頃です。

福祉用具専門相談員 ボランティア

みやがわ あきら
宮川 晃

明治2年5月1日(1896年6月10日)に大阪舎密局(おおさかせいみきょく)の開校を記念して舎密局の玄関で撮影された写真で、左端に最古の車いすが写っている。



写真提供：大阪大学名誉教授 芝 哲夫氏